

「父親になろう！」

氷上中学校 三年 奥谷 桃花

あなたの今日の夜ご飯は誰が料理をしましたか？それぞれの家で、母、父、祖父母、兄弟（姉妹）、自分、店など各家庭によっていろいろな人がご飯をつくっていると思います。私ん家の今日の夜ご飯のサバの塩焼きは父さんがつくりました。私の家の夜ご飯は母さんと父さんが1対1くらいの割合でつくっています。その事を人に言うと

「へー！！すごいな〜。」

「家は母さんだけやわ〜。」

と言う人が多いです。もちろん、誰が料理をしてもいいと思うのですが、家事は女の人ができるものという考え方が定着している事はダメだと思います。

私の家では母さんと父さんが曜日制でご飯をつくります。洗濯は2人ともしているし、掃除は全て父さんがしています。

昔から日本では『男尊女卑』という風潮があり、外で働いている男性の方が偉くて、女性は家で家事などをし、家庭を守るのは当たり前で女性の方が身分が低いと考えられてきました。しかし、最近は男女ともに平等に働く権利があると言われるようになり、女性も社会に出て働く人が多くなっていると思います。その状態で、共働きの夫婦で

「家事は女性がするもの」

となったら、女性にはとてつもなく大きな負担がかかります。

私の母さんは朝6時30分頃に家を出て、夜7時～8時（私が小学生の頃は、8時30分以降）に帰ってきます。そのため父さんは、朝7時に家を出て、夕方5時頃に帰ってきます。母さんが遅い分、父さんが早く帰ってきて夜ご飯をつくってくれます。父さんの家事もあって、私は生活できています。

話は少し変わりますが、最近、テレビやテレビで紹介された雑誌で『家事メン』『イクメン』という言葉が聞きます。家事メンとは家事を積極的におこなっている男性のことを指し、イクメンは、子育てに積極的で、楽しみながら自分自身も成長する男性のことを指します。

でも、私はこの言葉が苦手です。育児や家事を積極的にする男性は『家事メン』や『イクメン』ではなくて『父親』だと思います。赤ちゃんが泣いていたら抱っこして、うんちをしたらおむつを替えるのは、自分の子供に対して当たり前に行うことだと思います。

それに、ここでも男女の違いがでてきます。男性が家事や子育てをすると、「家事するんだ〜。すごいね〜。」

「わ～！！イクメンだね。」

みたいに称賛されるけど、母親がやるとそれは『普通』のこととして扱われます。これにはやはり母親が家事や育児をするのは当たり前で、男性は家事や育児をしないのが当たり前という意識があるから、『家事メン』『イクメン』という言葉ができたんだと思います。

結局のところ、私は何がいいたいのかというと、『家事メン』『イクメン』を目指すのではなく、『父親』になる人が増えてほしいということです。自分に子供が生まれたから父親になるという考え方ではなく、自分で父親になってほしいです。仕事の都合や家庭の事情でややこしい家もあるかもしれないけど、本当の母親と父親の時代が来て、いつまでも続いてほしいです。